あなたの歯の健康を守る
平成 25 年 1 月発行

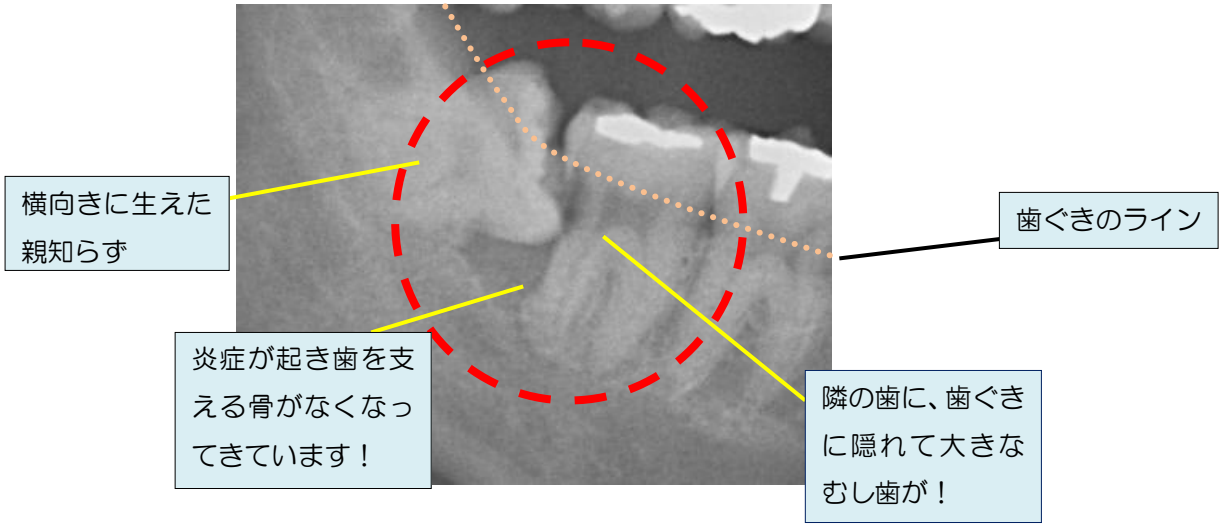
香林坊歯科クリニック

NO.49

「親知らず」ってなぜ抜くの？

親知らずとは？

いちばん最後に生えてくる奥歯で、智歯（ちし）とも呼ばれ、18～20 歳の頃に生えてきます。現代人のあごの骨格は、食事が軟らかくなるにしたがってスリム化する傾向にあり、発育が不十分であることもめずらしくありません。先に生えてそろっている永久歯だけでスペースはいっぱい。親知らずの分のスペースがないために、すでに生えている永久歯にひっかかって埋まったままになったり、間違った方向に生えて、トラブルの原因になるケースがたいへん多いのです。すでに生えている永久歯を傷めてしまう前に早めに抜くということになります。



抜いても大丈夫なのはなぜ？

実は私たちの親知らずは、現代の軟らかい食生活に合わせ、すでに役割を終えつつあると考えられています。隣の歯にくらべて歯根が短く、噛む力も噛み合わせに担っている役割も小さくなっており、先天的に全く生えない人も増えています。実際、親知らずがないため不自由している人はまずいないでしょう。そこで、すでに生えそろっている永久歯を後から生えてきた親知らずが傷めてしまう場合、親知らずを抜き、重要な役割を果たしている他の永久歯を守ることが出来ます。もちろん、正常に生え、上下がきちんと噛み合っている場合は抜く必要は全くありません。

抜ける人と抜けない人の違いは？

親知らずには抜ける歯と抜けない歯があります。その違いは下あごには太い神経と血管が通っており、その管は親知らずの根っこのごく近いところを通っています。親知らずの根っこの先があまりにも近かったり、神経や血管を巻き込んでいる場合もあり、このような時は親知らずは抜けません。こういった場合は、親知らずを抜かずに頭だけカットして埋め込んだり、月日を待って移動した事を確認してから抜歯する方法もあります。自分の親知らずがどういったタイプなのかレントゲンやＣＴを撮らないと判断出来ませんので、気になっている方は一度ご相談下さい。

参照：nico１２年３月号　クインテッセンス出版株式会社